



# ニューヨークの 有名私立校に見る 教育の最前線

トランプ大統領就任から1年以上が経ち、依然その動向が世界中から注目を浴び続けるアメリカ。

本誌ではこの1年間にわたり、

現地の人々の声を通して、

家族の多様性や子育て支援について

ご紹介してきました。

様々な考えを持つ者たちが

互いにバランスを保ち共存していくために、

どう人を育むことができるのか。

最終回では、ニューヨーク市を代表する

二校の有名私立校を通し、

教育者たちの取り組みをお伝えします。

文・ダグラス・ジママン

ジャーナリスト。米国出身。サンフランシスコ・クロニクル紙ウェブ版S.F. Gateで記者・フォトエディターとして働いた。各地取材する。

写真・中西あゆみ

写真家・映像作家。米国でフォトジャーナリズムを学ぶ。ジャカルタを拠点に活動し、長編ドキュメンタリー映画を制作中。



02

## Riverdale Country School

リバーデイル・カントリー・スクール

創立	1907年に男子校として設立（現在は男女共学）
対象	Pre-K <sup>1</sup> から12年生
場所	ブロンクス区
授業料	年間約5万ドル（約546万円 <sup>2</sup> ）
理念	人生における意味と目的を見つける手助けとなる経験を積ませること

創立111年の歴史を誇る名門私立校「リバーデイル・カントリー・スクール」は、ブロンクスのハドソン川を見下ろす丘の上にあります。マンハッタンから車で約1時間。都会の喧騒を離れ、3万坪の大自然の中にあるキャンパスには1,155人が通っています。4歳から小学校5年生までの「ロウアー・スクール」と、6年生から12年生（高校3年）までの「ミドル&アッパー・スクール」で構成されるこの学校は、その優れた教育機関としての評判と進歩的なカリキュラムによって、市内で最も「人気のある学校」の一つとされています。年間授業料が約5万ドル（約546万円<sup>2</sup>）かかるにもかかわらず、この学校に子どもを入れたいと願う親たちの長いウェイトング・リストがあります。



01

## Blue School

ブルー・スクール

創立	2006年
対象	プリスクール <sup>3</sup> から8年生
場所	ロウアー・マンハッタン地区
授業料	年間約5万ドル（約546万円 <sup>2</sup> ）
理念	人生の道筋を変える体験となる充実した時間を過ごす環境を作ること

パフォーマンスアートカンパニー「ブルーマン・グループ」のメンバーによって2006年、マンハッタンに設立された「ブルー・スクール」は、革新的な教育法を取り入れていることで知られています。「変化する世界のための教育を新たに想像する」ことを目的とし、探求・遊び・アート・創造的思考を中心とした生徒主導でプロジェクトに基づく学習カリキュラムが提供されています。プリスクール<sup>3</sup>から8年生（中学2年）までを対象としたこの私立校の授業料は年間およそ5万ドル（約546万円<sup>2</sup>）です。

<sup>1</sup>Pre-K（＝プリ・キンダーガーデン）：キンダーガーデンよりさらに1年前に始まる就学前教育で、ニューヨークではその年に満4歳になる子どもは通う権利がある。<sup>2</sup>1ドル＝109円で計算。<sup>3</sup>プリスクール：2歳児以上を対象にした幼児教育を行うスクール。公立、私立両方あり、週に数回～フルタイムで通うことができる。<sup>4</sup>キンダーガーデン：5歳児対象の小学校就業前に通う準備クラスで、小学校の中にキンダーガーデンクラスがある。アメリカの義務教育は、キンダーガーデン（K）から12年生までで「K-12」と呼ばれ、5歳から高校3年まで。



右：学校の玄関に集合する生徒たち。左：ブルー・スクールのPre-K1クラス。

# 01 変化する世界のための教育を Blue School

紛争を解決するには、  
『私・あなた・私たち』を  
確立しなくてはなりません。

「我々の試みはすべて、神経科学に基づいています。100年間の教育理論を、過去10年間の神経科学に移行しようとする試みです」。ブルー・スクール&ブルーマン・グループの共同創設者マット・ゴールドマン氏は言います。

「学校教育とは当初、工場で働くか軍隊に入るよう人々を訓練するために考案されたものでした。現在に至るまで、その構造は変わっていません。また、これまで多くの偉大な学校創設者が進歩的教育を実践してきましたが、それは机上の理論に過ぎず、科学的な裏付けとなるものは、ほとんどありませんでした。試行錯誤を経た有効な実践内容もありますが、問題は、人々がただ机に向かっていただけでは、軍事施設に在ると変わらない状態であるということなのです。進歩的な教育においてさえ、単に伝統に従って物事を行っているだけなのです」。ゴールドマン氏は続けます。

「本校ではプリスクール<sup>3</sup>から、『私・あなた・私たち』という概念を教えています。『私』とは、他者から学び、繋がることのできるように、自分の心と繋がり、その心の状態を理解しなければならぬということ。『あなた』は、いずれ他者を理解するのに不可欠な、相手に共感する方法を学ぶこと。『私たち』とは、すべての生徒がより大きなコミュニティの一



ブルー・スクール玄関の下駄箱。

員であり、ある世界で自分の場所を見つけ、参加する必要があるということです。紛争を解決するには、『私・あなた・私たち』を確立しなければなりません」。

**教師とのたったひとつの体験が  
子どもの人生の道筋を変える。**

子どもたちの遊び、コミュニケーションやアイデアは、教材を通じ、また他の生徒とのやり取りや彼らを取り巻く環境から生まれると就学前教育プログラム・ディレクターのローラ・セドロックさんは説明します。

「発想の転換ができる柔軟性のある子どもには、オープンエンドの教材が必要です。『オープンエンド』とは、固定された考え方を与えないことを意味し、子どもが新

しいアイデアを生み出すことを可能にします。神経科学の研究も、乳児、幼児や子どもが手や身体を使っているかを示しています。このような学習は、他者と協力するための、感情的で認知的な柔軟性を発達させます。「他者との協力」のプロセスを通じて生み出されたアイデアは、最終的に、完全に一人だけで行われた場合よりも、より豊かで高度なものに成長します。

各クラスでは、毎朝の朝礼でその日のプランについて話し合います。カリキュラムは固定されておらず、教師が生徒と協力して決定します。

「教室で行うことについて、生徒たちに強い当事者意識を持つてほしい。教師は彼らの成長を手助けするためにそこにいるのです」。

授業は探求型学習。同じ方法で教えることはないため、生徒だけでなく教師にとっても楽しいと言います。

「教師とのたったひとつの体験が、実際に子どもたちの人生の道筋を変えることを実証した研究は、数多くあります」とゴールドマン氏は言います。

「我々が試みていることは、人生の道筋を変えるような体験となる充実した瞬間や、数週間または数カ月を過ごす環境を作ることです。そのような充実した瞬間が時々、不定期に訪れるのではなく、意図的に頻繁に起こる環境を作ることができると思いませんか？ 答えはイエスです」。

words from the  
TEACHERS遊びをベースとした  
学習へのアプローチ

幼児期のプログラムでは、遊びをベースとして学習にアプローチし、教室にコミュニティを構築することを心がけています。ここは、互いにどう交流し合い、どのように一緒に遊ぶのかを学ぶ場です（キンダーガーデン<sup>4</sup>教師／ゴバル先生）

## 失敗する能力

生徒が失敗する能力を持つことも大切です。失敗体験を含む学びの多くは、教師が教室で前に立って子どもたちに教えるものではなく、生徒が学習の主導権を持ち、リスクを取ることが重要です（高学年ディレクター／グリーングラス先生）

支援する言葉、  
そして研究に基づく言葉

学習計画を決めるのは、生徒の発育と成長をどう支援できるかという視点。精神を育てることができたら人格も育てなければなりません（早期学習ディレクター／グレラー先生）

物事の伝え方は、生徒が何を取り込み、どう経験するかに影響します。生徒を取り囲むコミュニティが、彼らを支援する言葉と、学問に関する研究に基づく言葉で溢れていることが非常に重要です（ロウアー・スクール副長／フィアスト先生）

## 政治情勢を含むさまざまな議論

現代の政治情勢を含む様々な議題についても、当校ではありのまま扱っています。周りの世界で起こっている出来事と生徒たちを関わらせていくにはどうすべきか。共感を持って積極的に相手の話を聞くことや、様々な視点から考えることがなぜ大切なのかを、子どもたちが理解することが重要です。学校生活を通じて交わす、年齢に応じた会話が、卒業してからもコミュニティの一員として積極的に活動する時に必要なスキルとして身に付いているよう、願っています（ロウアー・スクール校長／デュヴァル先生）



ブロックをソリ代わりに雪を滑る生徒たち。

## 02

## 教育は、医療に似ている

## Riverdale Country School

生徒にとって最も重要なのは、財政的な成功ではなく、人生の意味と目的の発見だ。

この学校では、他では見かけないような試みや研究と実践が多くなされています。教師の「デザイン思考」を養うこともそのひとつです。これは、誰もが「より望ましい未来を創造することができるといふ自信」を持ち、教師一人一人が新しい視点で教育をデザインする、という考え方。教育者向けにオンラインで公開されており、120カ国で5万回以上ダウンロードされています。

「改革の先頭を切り、その実践結果を他校と共有することは、当校の教員や生徒にとって素晴らしい学びの経験になる」とドミニクA.A. ランドルフ学長は言います。

この学校では、「精神・人格・コミュニケーション」にフォーカスした教育カリキュラムを組み、生徒の人格形成に重点を置いています。

より良い人生のための目的意識を達成させる研究にも、力を注いでいます。

「生徒にとって最も重要なのは財政的な成功ではなく、人生における意味と目的を見つけることだ」という研究結果が出ています。我々は、その助けとなる基礎的な経験をどう積み重ね、いかに効果的に行うかに焦点を当てています」。

「教育というのは医療に似ている」とランドルフ学長は続けます。「研究を実践に移すには時間がかかります。我々の試みのひとつは、研究を他の学校よりも効果的かつ迅速に実践に移すこと。教育はその性質上保守的で、学校はリスクを恐れるものですが、もっと創造的になるべきです。試験的なプログラムや実験に対してオープンになる必要があると考えています」。

現在のアメリカの変化に対しては、中核的な信念に立ち返ることが大切だと学長は言います。「世の中では、適切な質問をし、何が明確な証となるのかを考える



上：リバーデイル・カントリー・スクールのキャンパス。

下：取材時は冬。雪のキャンパスで遊ぶ生徒たち。

クリティカル・シンキングが非常に重要です。当校では、質問し、証拠を構築し、分析して考えを進めるという手法を、初期の段階から実施しています。子どもたちには自分の意見を述べ、他者とは異なる視点をも提示できるように促してほしい。生徒がそのプロセスを早期に開始することが重要なのです」。

